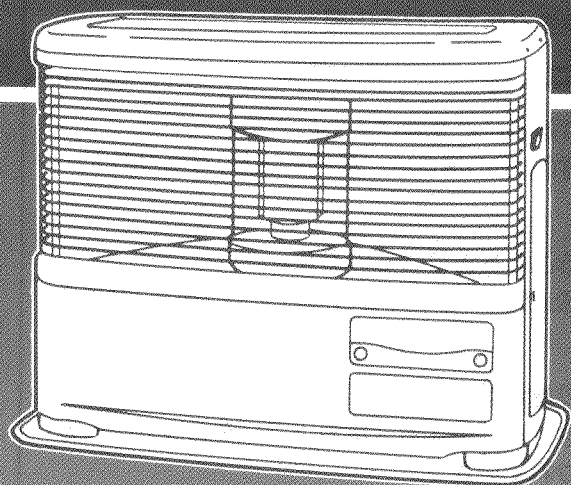
CORONA

コロナ床暖房用密閉式石油ストーブ

取扱説明書

正しく使って上手に節約

UHB-TP1000

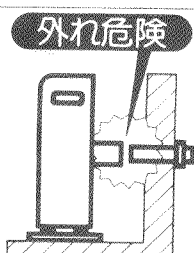
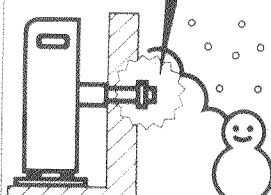
このたびはコロナ石油ストーブ（UHB形）をお買い上げくださいましてありがとうございました。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。
まちがった取扱いは思わぬ事故や故障の原因となります。
お読みになった後も取扱説明書は保証書と共に必ず保管してください。

もくじ

⚠警告

GASOLINE

KEROSENE ONLY

ガソリン使用禁止
使用燃料：灯油

1.特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

⚠記号は注意を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は一般的な注意)が描かれています。

⦸記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合はガソリン禁止)が描かれています。

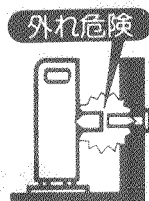
❗記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

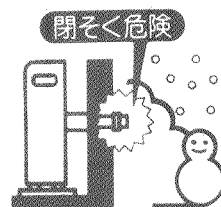
⚠警告

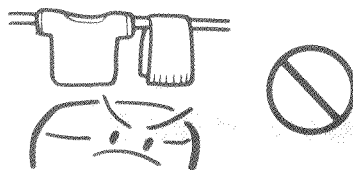
●ガソリン厳禁

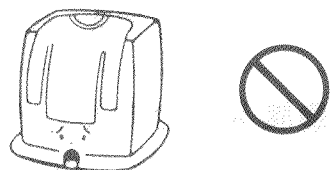
ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
火災の原因になります。

●外れ危険

給排気筒(管、ホース)が正しく接続されているか点検してください。
外れていると運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

●給排気筒トップ閉そく危険

積雪が多いときには、給排気筒トップの周りが雪でふさがれていないことを確認してください。ふさがれているときは、除雪してください。運転中に排ガスが室内にもれて、危険です。

●衣類の乾燥厳禁

衣類などの乾燥には使用しないでください。
衣類が落下して火がつき、火災の原因になります。

●温風吹出口をふさがない

衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。
衣類、紙などでふさぐと、火災の原因になります。

●スプレー缶厳禁

殺虫剤などのスプレー缶をストーブの上や前に放置しないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発し、危険です。

●低温やけどに注意

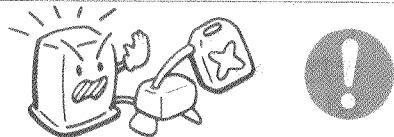
長時間皮膚の同じ場所に触れないでください。
比較的低い温度（40～60℃）でも低温やけどのおそれがあります。

⚠注意

●カーテン、可燃物近接禁止

カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
火災が発生するおそれがあります。

●給油時消火

給油は、必ず消火してから行ってください。
火災のおそれがあります。

●異常時使用禁止

万一異常を感じたときは使用しないでください。
異常燃焼のおそれがあります。

●温風に直接あたらない

温風に直接長時間あたらないでください。
低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

●高温部接触禁止

燃焼中や消火直後は、高温部、給排気筒、給排気筒トップ、枠上部に手などふれないでください。やけどのおそれがあります。

1.特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

⚠注意

●分解修理の禁止

故障、破損したら、使用しないでください。
不完全な修理は、危険です。

●腰をかけたり、物をのせないで

腰をかけたり、やかんや花びんなどの物をのせないでください。
やけどしたり、ストーブが変形することがあります。
また、水が内部に入ると、感電、火災、故障の原因になります。

●改造使用の禁止

改造して使用しないでください。
また、ストーブや給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取り付
けないでください。
火災や排ガスが室内にもれる原因となり危険です。

●電源コードを傷めない

電源コードに無理な力を加えたり、物をのせたりし
ないでください。
また、電源プラグを抜くときは、コードを持って引
き抜かないでください。
火災や感電の原因になります。

●電源プラグは確実に差し込む

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込ん
でください。
また、傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用し
ないでください。火災の原因になります。

●長期間使用しないときは電源プラグを抜く

長期間使用しないとき又は保管するときは、必ず電源プラグをコ
ンセントから抜いてください。
火災や予想しない事故の原因になります。

●電源プラグのお手入れを

ときどきは電源プラグを抜き、ほこり及び金属物を除去してくだ
さい。
ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり火災の原因になりま
す。

1.特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください

●灯油の保管

灯油は、火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。ガソリンなどと一緒に保管しないでください。誤って使用すると異常燃焼や火災のおそれがあります。

●変質灯油禁止

変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などを使用しないでください。
異常燃焼や故障のおそれがあります。

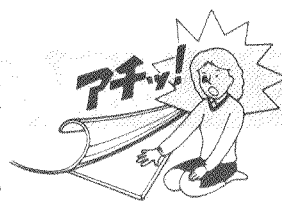
●ファンフィルターをはずしての運転禁止

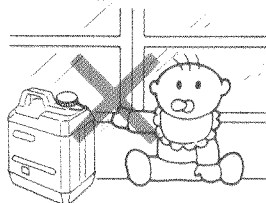
対流用送風機のファンフィルターをはずした状態で運転しますと、カーテンなどを巻き込んで火災になるおそれがあります。
また手などふれるとけがをするおそれがあります。

●膨張タンクの水位に注意

循環水は少しずつ蒸発します。
1ヶ月に1回程度は、冷却時に膨張タンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は床暖房専用補充液を補給してください。
上限水位以上は、入れないよう注意してください。
（水位の点検及び補充液の補給は、必ず循環水が冷えている時に行ってください。）

●カーペットのずれに注意

カーペットがずれたりめくれたまま使用しないでください。
床パネルに直接触れるとやけどのおそれがあります。

●循環液・補充液の保管に注意

幼児の手の届かない所に保管してください。
万一、飲んだ場合には吐かせて、医師の診断を受けてください。

●指や棒を入れないで

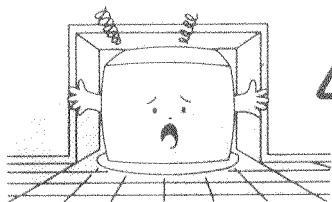
給排気筒トップに指や棒などを入れないでください。
ケガや火災の原因になります。

⚠注意

●初めてお使いになるときの注意
初めてお使いになるときは耐熱塗料などが焼付くまで煙と臭いが出ます。しばらくの間、窓をあけて部屋の換気を行ってください。また、小鳥や小動物などに影響する場合が考えられますので、この間は部屋に入れないでください。

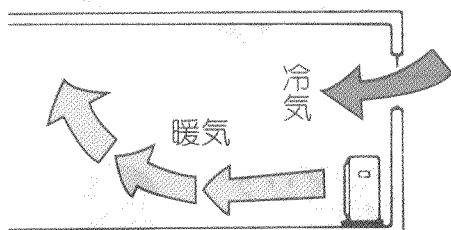
2.使用する場所

ストーブを安全に使用するためには、場所の選定が大切です。

安全に使用するために

●マントルピースなどに据え付ける場合は、標準据付け例にしたがってください。(43・44ページ参照)

●標高が1000mを越える高地では使用しないでください。
(空気の濃度が薄いため、燃焼に必要な空気が不足します。)

効果的に使用するために

冷気
暖気

●冷気の入ってくる方向、例えば窓側などに置くと、冷気がストーブで暖められて対流しますので、効果的です。

出入口など人の通るところは、ぶつかると危険ですので避けてください。

●部屋の保温を工夫し、部屋の温度の調節を心がけましょう。

ストーブの前面に障害物があると、部屋の温度にむらができるばかりでなく、ふく射熱によってストーブ本体の温度が上昇して危険です。
使用場所には十分注意して効果的に使用してください。

●ストーブの前は、反射板からのふく射熱がでますので、床暖パネルとの距離を考慮してください。
●温水配管の長さが短くなるような位置にストーブを設置してください。

3.各部の名称

外観図
正面
上面板ふた
上面板
前面ガード
とって
ガラス円筒
表示部
前板
ボイラー運転スイッチ
ストーブ運転スイッチ
調節脚
操作部
(オーブンポケット)
置台
定油面器リセットレバー
背面
ファンフィルター
本体固定金具
対流ファンケース
サブタンク(内部)
背面カバー
対流用送風機(内部)
熱交サーモスタット(内部)
異常過昇防止サーモスタット(内部)
本体固定金具
給排気筒
防爆装置(内部)
熱交換器(内部)
熱交缶体(内部)
缶体排水口
ストーブ用
燃焼用送風機
水位計
水平器
バイパス管
ゴム管口
温水往き口
給気ホース
エア抜きバルブ
電源コード
温水戻り口
排気管抜け検知用リード線
ルームサーモ
ボイラー用燃焼用送風機
構造図
断熱板ふた
燃焼筒ふた押え
断熱板
放熱器(内部)
燃焼筒ふた
スケルトン
過熱防止サーモスタット
異常過熱防止サーモスタット
点検窓
注水カップ
ストーブバーナ
給水扉
反射板
燃焼リング(内部)
給水キャップ(内部)
プリント配線板
循環ポンプ単独運転スイッチ(内部)
フレームロッド
膨張タンク
安全サーミスタ(基板上)
からだき電極(内部)
ボイラー用点火トランス(内部)
湯温サーミスタ(内部)
トランス(内部)
排水栓
対震自動消火装置(内部)
ボイラーバーナ
ストーブ用電磁ポンプ
切替サーモスタット
ボイラー用電磁ポンプ
循環ポンプ
定油面器
ボイラー用点火ヒータ
ストーブ用送油管
ボイラー用送油管
ポットサーミスタ(内部)
ストーブ用点火ヒータ
点火ネット(内部)
ノズル(内部)
「操作部は
開きます」

表示部の名称と働き

ボイラー燃焼表示(赤)

・ボイラーバーナが本燃焼になると点灯し、ボイラー運転スイッチを押して「切」にするまで点灯し続けます。（湯温制御による消火時を除く）

ボイラータイマーマーク(青)

・床暖房(ボイラー)側がタイマーセット(タイマー切替スイッチが［ボイラー］、または［ストーブ ボイラー］にセット)されると点灯します。

ボイラー運転表示(赤)

・ボイラー運転スイッチを押して「入」(▲)にした時に点灯し、運転します。
・運転中は点灯し続けます。

ボイラー消火表示(青)

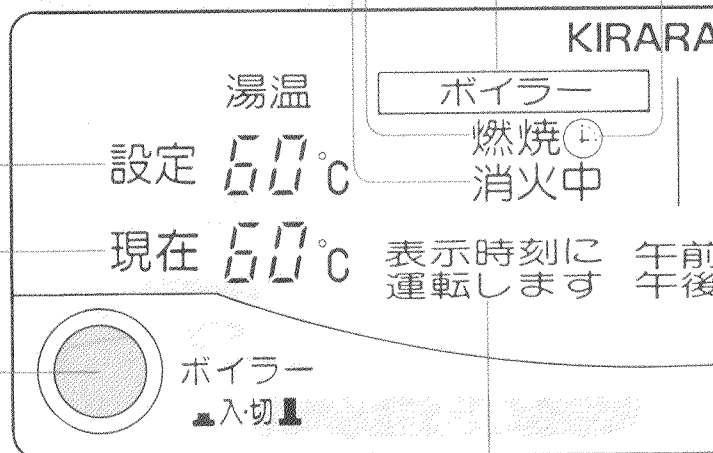
・ボイラー運転スイッチを押して「切」(▲)にすると点灯し消火します。
・燃焼室が冷却すると消灯します。

KIRARA
湯温　ボイラー
設定 60 ℃　燃焼　消火中
現在 60 ℃　表示時刻に運転します　午前 午後

設定湯温表示(青)

・ボイラ湯温調節ボタンで設定した温水の設定温度を表示します。
・床暖房(ボイラー)側にトラブルが発生すると、トラブル箇所が記号表示(モニターサイン――F表示)されます。

現在湯温表示(青)

・温水出口温度を表示します。

タイマー表示(青)

・タイマー運転中は点灯します。
・タイマー運転停止中は、消灯します。

ボイラー運転スイッチ

・押す(▲)と床暖房(ボイラー)が運転します。
・もう一度押す(▲)と運転を停止します。

時刻表示(青)

・通常は現在時刻を表示します。
・タイマー運転時はタイマーセット時刻を表示します。

EYE
設定室温
24℃
12:00.
ストーブ
燃焼
セーブ 消火中
ストーブ
入·切

設定室温表示(青)

- 室温設定ボタンで設定した室温を表示します。
- ストーブにトラブルが発生すると、トラブル箇所が記号表示(モニターサイン――E・P表示)されます。

ストーブ運転表示(赤)

- ストーブ運転スイッチを押して「入」(▲)にした時に点灯し、運転(点火)します。
- 運転中は点灯し続けます。

ストーブ燃焼表示(赤)

- ストーブバーナが本燃焼の間点灯します。

ストーブタイマーマーク(青)

- ストーブ側がタイマーセット(タイマー切替スイッチが ストーブ 、または ストーブ ボイラー にセット)されると点灯します。

ストーブ消火表示(青)

- ストーブ運転スイッチを押して「切」(▲)にすると点灯し消火します。
- 燃焼室が冷却すると消灯します。

セーブ消火中表示(青)

- ストーブのセーブ運転中に室温が設定温度より約3℃上昇すると点灯し消火します。
- 室温が設定温度にまで下がると消灯し点火動作を始めます。

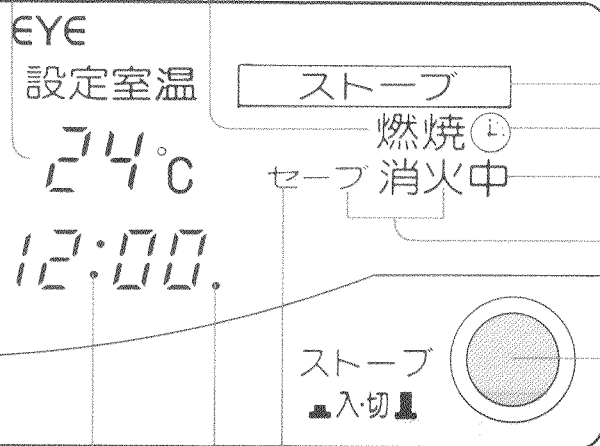
セーブ運転表示(青)

- ストーブのセーブ運転中は点灯し、解除すると消灯します。
- 室温設定を10℃(F点設定)にすると自動的にセーブ運転になり点灯します。

ストーブ運転スイッチ

- 押す(▲)とストーブが運転(点火)します。
- もう一度押す(▲)と消火します。

時計動作コロン(青)

- 現在時刻を表示しているときは点滅しています。
- タイマーセット時刻を表示しているときは消灯しています。

オープンポケット内操作部の名称と働き

■オープンポケットの開閉

●オープンポケットを軽く押し込むと、ゆっくり出てきます。操作後軽く押しもどすとロックして止まります。

操作するとき以外は、閉じてご使用ください。

ボイラー湯温調節ボタン

温水出口温度を30～75℃の範囲に設定します。
・「高」…１回押すたびに設定温度を5℃上昇
・「低」…１回押すたびに設定温度を5℃低下
（湯温の設定範囲については18ページ「循環水の温度調節」の項をお読みください。）

タイマー切換スイッチ

ストーブ/ボイラー……床暖房（ボイラー）、ストーブ両方をタイマー運転

ボイラー……床暖房（ボイラー）のみをタイマー運転

ストーブ……ストーブのみをタイマー運転

以上の３通りのいずれかの位置に合わせます。タイマー切換スイッチのセット位置に応じたタイマー運転ができます。

時ボタン

・時刻の「時」を合わせるときに使います。

分ボタン

・時刻の「分」を合わせるときに使います。
・時計調節スイッチの位置により、１回の押しの進み方が異なります。
「時計合せ」…１分ずつ変わります。
「タイマー合せ」…5分ずつ変わります。

■表示部の明るさ調節

●時計調節スイッチを「通常」に合わせて「時ボタン」を押しながら「分ボタン」を押すことにより、表示部の明るさを2段階に調節することができます。

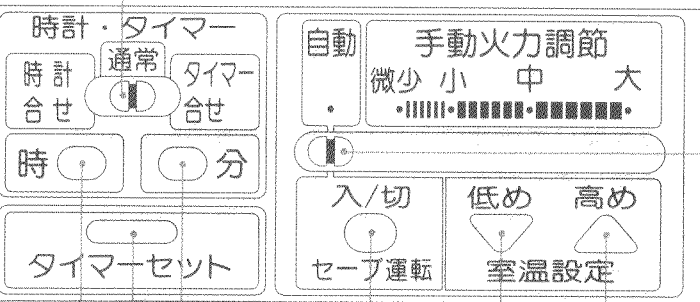
時計調節スイッチ

・「時計合せ」…現在時刻を合わせるときに「時計合せ」位置にします。
・「タイマー合せ」…タイマーセット時刻を合わせるとき「タイマー合せ」位置にします。
・「通常」…現在時刻やタイマーセット時刻を合わせたら、通常使用中は、「通常」に必ずもどしてください。

ストーブ火力調節つまみ

・ストーブ火力調節つまみを「微少」から「大」の間で動かし火力をリニアに手動調節します。
・ストーブ火力調節つまみを「自動」に合わせるとルームサーモによる自動運転（室温設定ボタンで室温を設定）ができます。

室温設定ボタン

・ストーブ火力調節つまみを「自動」にするとルームサーモによる室温設定〔29～15℃、10℃（F点設定）〕ができます。
・「高め」…設定温度を1℃ずつ上昇
・「低め」…設定温度を1℃ずつ低下

タイマーセットボタン

・タイマー運転
ボイラー運転スイッチ、またはストーブ運転スイッチを「入」にし、タイマーセットボタンを押すことにより、タイマー表示とタイマーマークが点灯、時刻表示にタイマーセット時刻が継続して表示され、タイマー運転が開始されます。（タイマー表示が点灯しなければタイマー運転は開始されません。）
・セット時刻になると、タイマー表示とタイマーマークが消灯し現在時刻が表示されて自動的に運転が開始されます。
・タイマー運転の解除
タイマー運転中にもう一度、タイマーセットボタンを押すとタイマー運転が解除されます。

ストーブセーブ運転ボタン

・ストーブ火力調節つまみが「自動」のとき、1回押すとストーブセーブ運転します。室温が設定温度より一定温度上昇すると消火し、一定温度低下すると自動的に点火動作に入ります。
・再度押すと、ストーブセーブ運転は解除されます。

4.使用前の準備

燃　料

燃料は必ず灯油（JIS１号灯油）を使用してください。

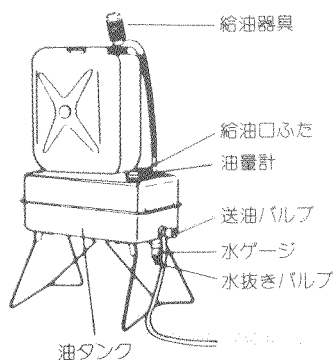
● ⚠警告 ガソリンなど揮発性の高い油は、火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。

● ⚠注意 変質灯油、汚れた灯油、水の混じっている灯油などは、絶対に使用しないでください。

● ⚠注意 灯油は、必ず火気・雨水・ごみ・高温及び、直射日光を避けた場所に保管してください。

GASOLINE

給　油

■給油の際の手順と注意

●送油バルブを閉じて給油口ふたをはずし市販の給油器具で灯油を給油してください。
油量計の針が「満」をさしたら給油をやめてください。

●給油口ふたを必ずもとどおりに締めてください。

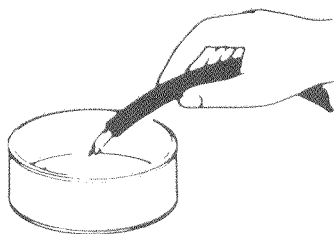
●給油の際に、水、ごみなどを入れないよう特に注意してください。

■給油口ふたは、確実に締めてください。

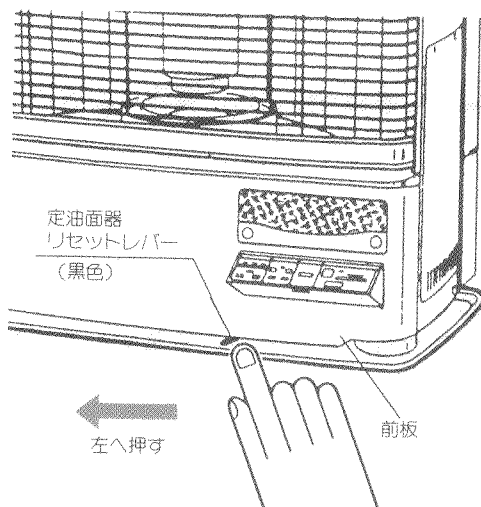
■こぼれた灯油はよくふきとってください。

■燃料切れの注意と空気抜きの方法

油タンクを空にしないように注意してください。

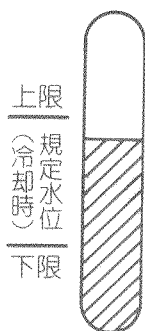
油タンクを一旦空にしますと、送油経路内に空気がたまり、正常に送油ができなくなることがあります。このような場合には次の順序で空気抜きをしてください。

1.油タンクに給油します。
2.ストーブのゴム管口から、ゴム製送油管をはずします。
3.ゴム製送油管から油が連続して流れ出ることを確かめてからゴム製送油管をもとどおりにストーブに取り付けます。（油がこぼれないように容器を用意してください。）

運転開始前の準備と確認

■安全装置のセット、取扱上の注意

定油面器のセット

初めて使用するときやシーズン初めには、ストーブ正面右下の定油面器リセットレバー（黒色）を左方向に止まるまで押してください。

- ●リセットレバーは据付け時やシーズン初めに操作します。定油面器に強い衝撃を与えたり異常があったとき以外は、特に操作する必要はありません。万一、点火操作後灯油が出ずにモニターサインE1、E2やF6、F7が表示されるような場合はリセットレバーを押してください。
（安全弁がはずれ、灯油がスムーズに流れます。）
- ●リセットレバーは乱暴に扱ったり、押したままの状態には絶対にしないでください。

■循環水の水位確認

●**⚠注意 ストーブ左側面の水位計で、膨張タンクの規定水位（上限水位と下限水位の間）まで循環水（コロナ床暖房用循環液）が入っていることを確認してください。**
循環水が入っている場合は黄色になります。
循環水は上限以上入れないよう注意してください。
水位が下限以下の場合は、床暖房専用補充液を入れてください。

（水位の点検及び補充液の補給は、必ず循環水が冷えている時に行ってください。）

■送油経路の油もれの確認

●油タンクや送油管の接合部などから油もれがないかどうか確認してください。

運転開始前の準備と確認

■温水配管のバルブ「開」の確認

●温水配管の途中にバルブが取りつけられている場合は、必ず運転前に１部屋（１回路）以上のバルブが常に開いていることを確認してください。（循環水が常に流れる状態にしてください。）

●バルブを全部閉じたままで運転しますと、安全装置の働きで運転を停止し、警報が出ることがあります。

■温水配管の水もれの確認

●ストーブ内部や温水配管接合部から水もれがないか確認してください。
●温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

■電気配線の確認

● ⚠注意 **電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差し込んでください。**
●電源コードが給排気筒などの高温部にふれるおそれのないことを確認してください。

ご注意 **電源プラグ・コードの発熱・発火を防ぐために…**
●電源は必ず適正配線された単相100Ｖのコンセントを使用してください。
●電源コードは、途中で接続したり延長コードの使用・他の電気器具とのタコ足配線をしないでください。

■接地(アース)の確認

●工事説明書にしたがい、接地（アース）がとられているかどうか確認してください。

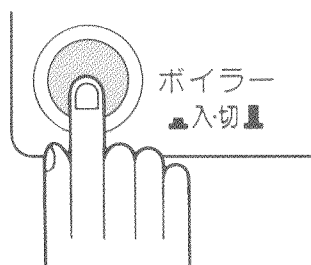
5.使用方法

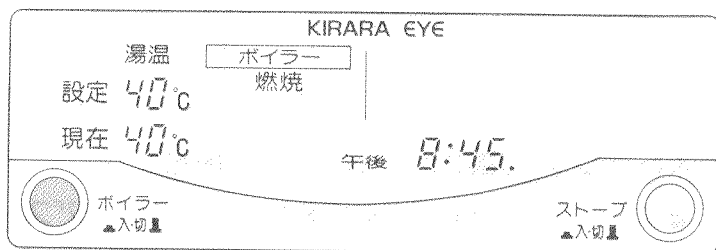
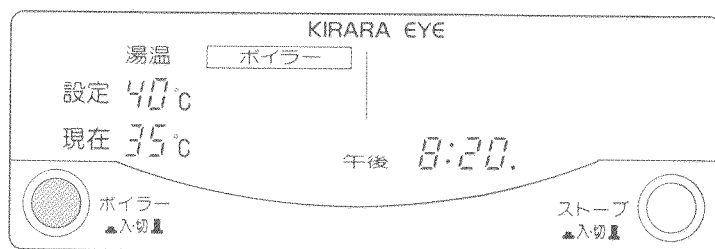
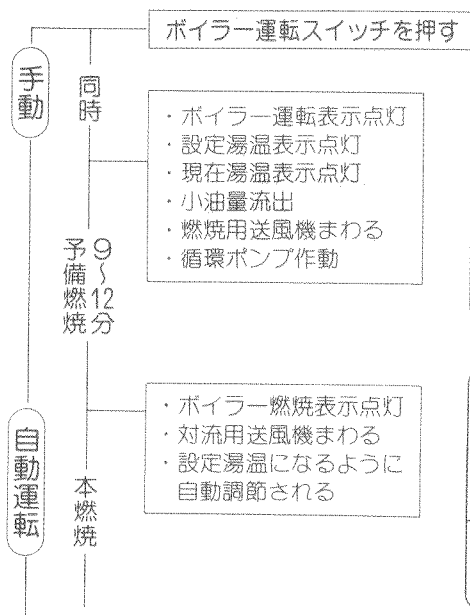
●ストーブの運転には3種類の方法があります。ご希望に応じて使い分けてください。
- ●床暖房（ボイラー）単独運転………床暖房（ボイラー）だけの単独運転を行う場合。
- ●ストーブ単独運転……………………ストーブだけの単独運転を行う場合。
- ●床暖房（ボイラー）・ストーブ同時運転…床暖房（ボイラー）運転とストーブ運転を同時に行う場合。

●ストーブの火力調節には2種類の方法があります。ご希望に応じて使い分けてください。
- ●自動運転………希望の室温設定を行うことにより、室温を設定室温に自動調節します。
- ●手動運転………火力調節つまみを「微少」～「大」の間の希望火力に合わせることにより設定火力で燃焼を継続します。

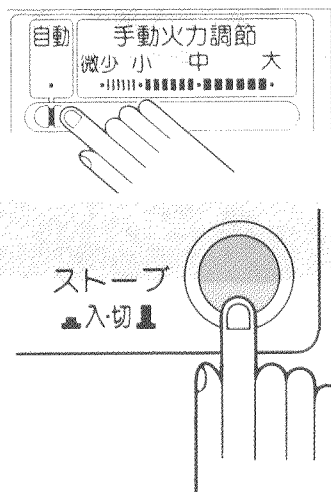
運転開始（点火）

■床暖房（ボイラー）単独運転

●時計合わせは20ページ「現在時刻の調節方法」を参照して行ってください。

1. 時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。

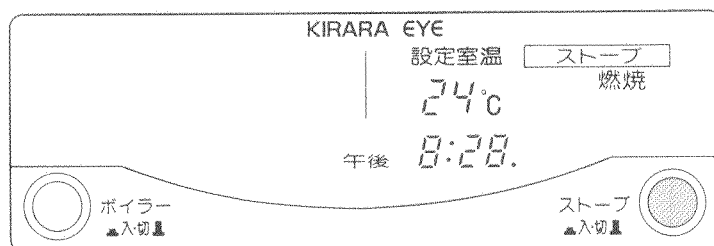
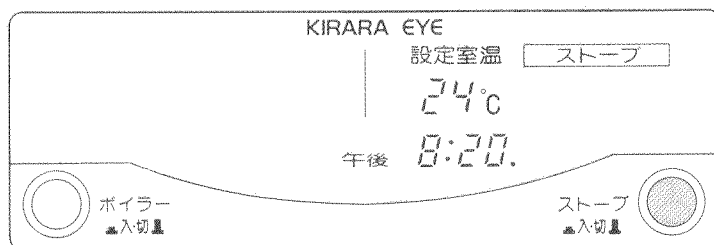
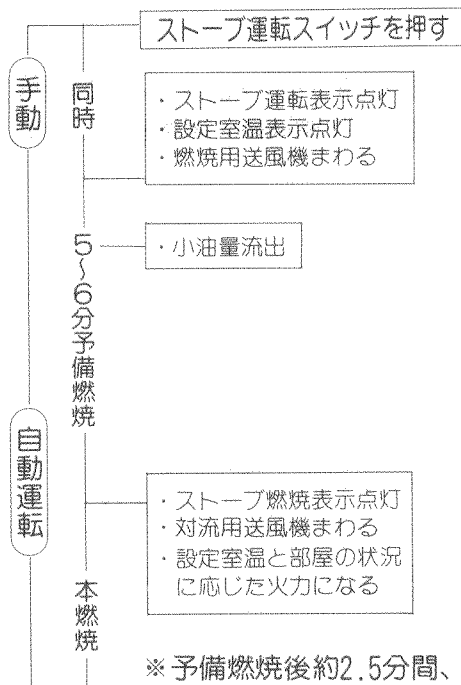
2. ボイラー運転スイッチを押して「入」にしてください。
自動的に次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。

運転開始(点火)

■ストーブ単独運転

●時計合わせは20ページ「現在時刻の調節方法」を参照して行ってください。

ストーブ火力調節「自動運転」の場合

1.時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。

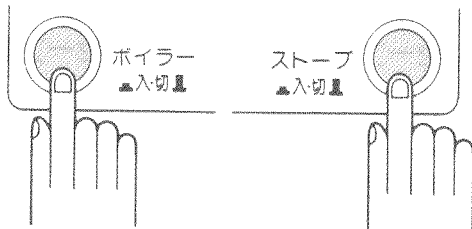
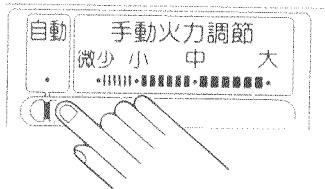
2.オープンポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせてください。

3.ストーブ運転スイッチを押して「入」にしてください。自動的に次のように運転（予備燃焼・本燃焼）します。（ストーブ火力調節「手動」（微少〜大）の場合は設定室温の表示はありません。）

※予備燃焼後約2.5分間、火力は中火力になります。

ストーブ火力調節「手動運転」の場合

●ストーブ火力調節の手動運転の方法は18ページ「ストーブ火力調節（手動調節――手動運転）」を参照して行ってください。

■床暖房(ボイラー)・ストーブ同時運転

●時計合わせは20ページ「現在時刻の調節方法」を参照して行ってください。

ストーブ火力調節「自動運転」の場合

1.時刻表示が現在時刻を表示していることを確認してください。

2.オープンポケット内の火力調節つまみを「自動」に合わせてください。

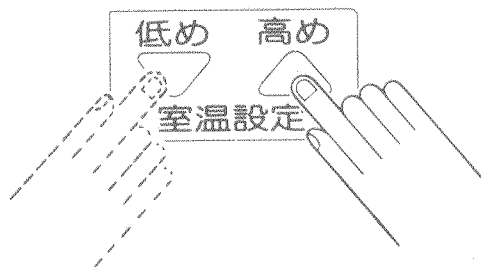
3.ボイラー運転スイッチ及びストーブ運転スイッチを押して「入」にしてください。自動的にそれぞれの運転(予備燃焼・本燃焼)を開始します。
(ストーブ火力調節「手動」(微少〜大)の場合は設定室温の表示はありません。)

ストーブ火力調節「手動運転」の場合

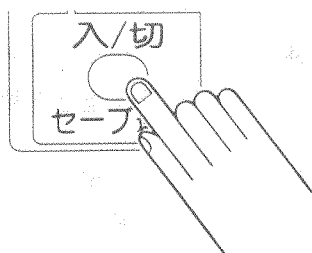
●ストーブ火力調節の手動運転の方法は18ページ「ストーブ火力調節(手動調節——手動運転)」を参照して行ってください。

●運転スイッチを「入」にした時、タイマー表示「表示時刻に運転します」が点灯する場合は、タイマー運転となりますので、タイマーセットボタンを押してタイマー運転を解除してください。
●燃焼中に運転スイッチを押して「消火」にしたり、タイマーセットボタンを押すなどして約1秒以上通電を止めますと自動消火し、燃焼室が冷却してからでないと再点火できません。

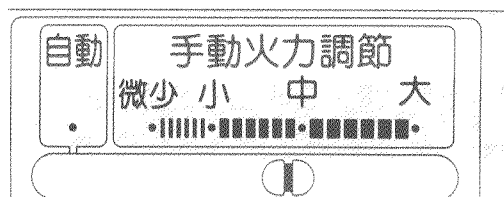
室温の調節（自動運転）

オープンポケット内のストーブ火力調節つまみを「自動」に合わせると、ルームサーモによる自動運転となり、設定室温に自動調節されます。
表示部に設定室温（24℃）が表示されますので次のように調節してください。

- 室温設定ボタン「高め」を押すたびに1℃上昇します。（上限29℃）
- 「低め」を押すたびに15℃までは1℃ずつ下がり、15℃からはいきなり10℃（F点設定）となります。
- 10℃設定の場合はセーブ運転表示が点灯し、セーブ運転となります。
  （設定室温を15℃以上に上げるとセーブ運転表示が消え、自動的に解除されます。）

セーブ運転

ストーブ火力調節「自動」運転時に、微少火力でも室温が設定室温より上昇する場合、設定室温より約3℃上昇すると自動的に消火し、設定室温まで下がると点火動作に入ります。これをくり返すことによりむだな部屋のあたため過ぎを防ぎます。

- 室温設定ボタンにより希望の室温設定後、セーブ運転ボタンを押してください。
  セーブ運転表示が点灯し、セーブ運転となります。
- セーブ運転ボタンを再度押すことによりセーブ運転表示が消え、セーブ運転解除となります。

ストーブ火力調節（手動調節ー手動運転）

室温設定による自動運転の他に、ストーブ火力調節つまみによる手動火力調節が可能です。
次のようにしてください。

●火力調節つまみを「微少」から「大」の間のご希望の位置に合わせてください。
表示部の設定室温表示が消えて火力調節つまみの設定火力で燃焼します。

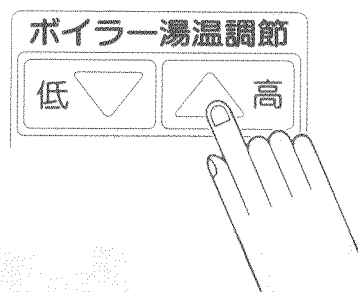
■炎の状態

ストーブの据付けや給排気筒の設置条件で、炎は多少変化します。

●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎(赤火)がまじっても異常ではありません。

循環水の温度調節

循環水の温度調節を行ってください。
循環水の湯温を設定すると、設定湯温になるように自動調節されます。
湯温の設定範囲は30～70℃で、5℃単位で設定できます。

湯温
設定 40℃
現在 20℃

1.特に温度設定しない場合は、自動的に40℃に設定され、表示されます。
2.ボイラー湯温調節ボタンを押すことにより、次のように循環水の温度設定ができます。
・「低」……1回押すたびに設定温度を5℃下げ設定湯温表示に表示します。
・「高」……1回押すたびに設定温度を5℃上げ設定湯温表示に表示します。
3.現在湯温表示に循環水の現在湯温が表示されます。
現在湯温表示は、20℃～80℃で表示されます。
（19℃以下……Lo表示
81℃以上……Hi表示）

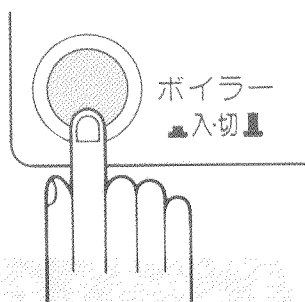
高温スイッチについて

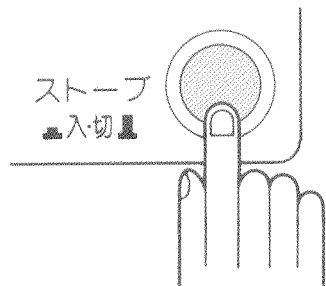
●ファンコンベクター等を設置し、循環水の湯温設定を70℃より高くしたい場合、高温スイッチを「入」にするように販売店に依頼してください。
●高温スイッチを「入」にすると、湯温の設定範囲は30～75℃で、5℃単位で設定できます。

循環水の温度調節

●湯温の温度調節は、循環水の温度調節のためであり、部屋全体の温度調節ではありません。床暖パネルのカーペット表面が熱くなりすぎないよう使用温度には、十分注意してください。
●高温スイッチは通常は、必ず「切」の状態で使用してください。
●設定湯温と現在湯温とは、家屋の構造や設置条件によって一致しない場合もあります。

運転停止（消火）

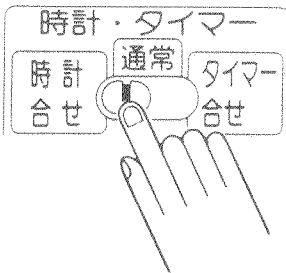
■床暖房(ボイラー)運転停止

ボイラー運転スイッチを押して「切」にしてください。ボイラー燃焼表示が消灯し、消火表示が点灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、対流用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべての表示類が消灯します。

■ストーブ運転停止

ストーブ運転スイッチを押して「切」にしてください。ストーブ燃焼表示が消灯し、消火表示が点灯します。
燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、対流用送風機が停止し、時刻表示以外のすべての表示類が消灯します。

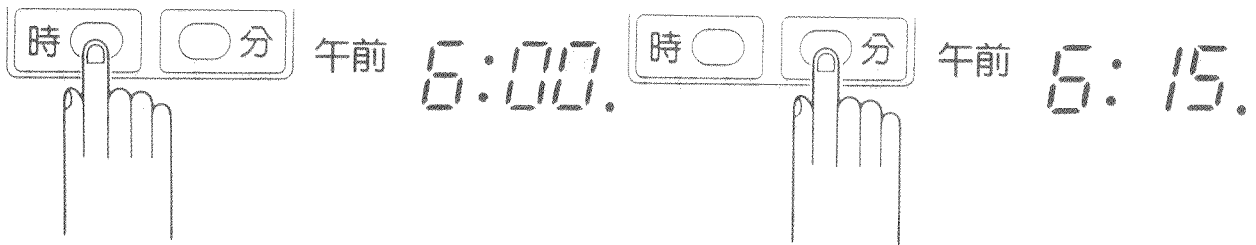
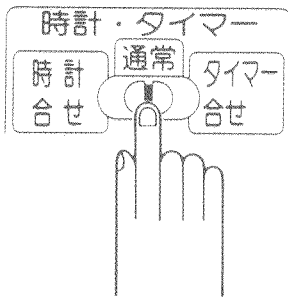
● ⚠注意　**2日以上家をあけるなど長時間使用しない場合は、運転が完全に停止してから電源プラグをコンセントから抜いてください。**
●外出のときは、必ず運転を停止（消火）してください。
●運転停止後、燃焼室が冷却（消火表示が消灯）するまでは電源プラグを抜かないでください。もし抜きますと、ガラス円筒がくもったり、ストーブの表面温度が上昇します。

消火後、再点火するときの注意

●燃焼中に誤って電源プラグを抜いたり、運転スイッチを「切」にすると、再点火安全装置の働きで、ストーブが冷却されるまで再点火できません。
ただし瞬間的な消火操作（約1秒以内）の場合は、そのまま燃焼が継続されます。
●停電時には、必ず運転スイッチを「切」にしてください。

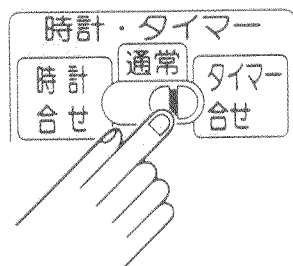
現在時刻の調節方法

1.オープンポケット内の時計調節スイッチを「時計合せ」にします。
はじめて使用するときや、電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は-：--.を表示します。

2.時計調節の「時」・「分」ボタンを押して現在時刻を合わせます。

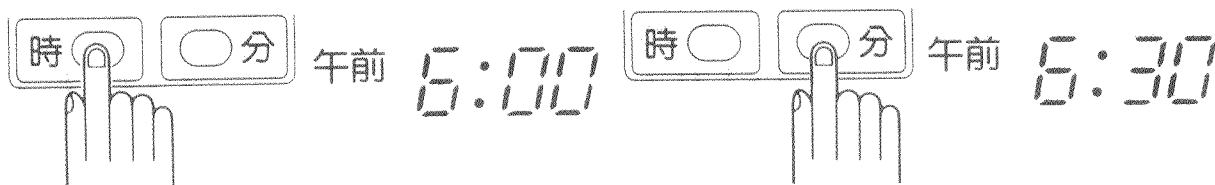
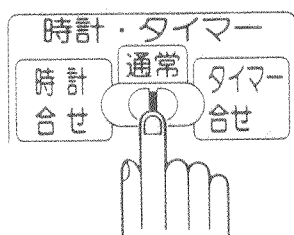
例：午前6時15分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して"午前6：00"にします。　②「分」ボタンを押して"午前6：15"にします。

3.必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。この時から時計が動きだします。

●必ず時計調節スイッチが「通常」になっていることを確認してください。
●30秒以内の停電であれば、再通電後も現在時刻を表示しますので時刻合わせの必要はありません。それ以上の停電で、時刻表示が-：--.を表示したら時刻合わせを行ってください。

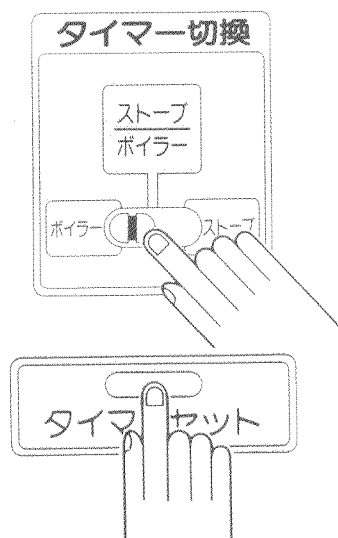
タイマーの使用方法

■運転時刻の合わせ方

1.オープンポケット内の時計調節スイッチを「タイマー合せ」にします。
はじめて使用するときや、電源プラグを長時間抜いたときは、時刻表示は－：－－を表示します。

2.時計調節の「時」・「分」ボタンを押してタイマー点火時刻を合わせます。「分」は5分ごとに動きます。

例：午前6時30分に合わせる場合

①「時」ボタンを押して"午前6：00"にします。 ②「分」ボタンを押して"午前6：30"にします。
これでタイマーセット時刻が記憶されました。

3.必ず時計調節スイッチを「通常」位置にもどしてください。これで時刻表示には現在時刻が表示されます。

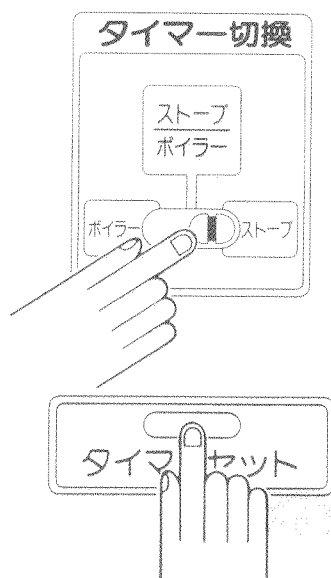
■タイマー運転方法

床暖房（ボイラー）単独のタイマー運転……ストーブ運転をしたままで床暖房（ボイラー）のタイマー運転を行う場合

1.タイマー切替スイッチを ボイラー の位置に合わせてください。

2.ボイラー運転スイッチを「入」にしてください。
（燃焼中の場合はそのままです。）

3.ボイラー湯温調節ボタンで、循環水の温度をご希望の温度に合わせてください。

4.タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示とボイラータイマーマーク（燃焼中の場合は消火表示も）が点灯し、床暖房（ボイラー）だけのタイマー運転に入ります。

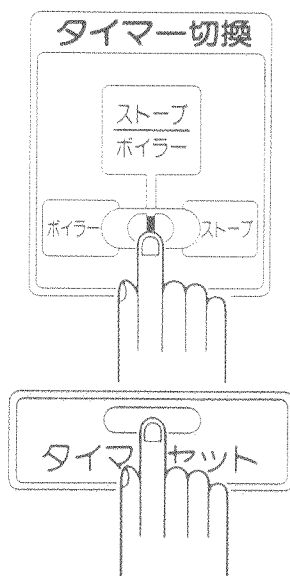
ストーブ単独のタイマー運転

……床暖房（ボイラー）運転をしたままで、ストーブのみのタイマー運転を行う場合

1.タイマー切替スイッチを ストーブ の位置に合わせてください。

2.ストーブ運転スイッチを「入」にしてください。（燃焼中の場合はそのままです。）

3.運転するときのご希望の火力に合わせてください。

4.タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示とストーブタイマーマーク（燃焼中の場合は消火表示も）が点灯し、ストーブだけのタイマー運転に入ります。

床暖房(ボイラー)・ストーブの同時タイマー運転

……床暖房（ボイラー）とストーブを同時にタイマー運転する場合

1.タイマー切替スイッチを ストーブ/ボイラー の位置に合わせてください。

2.ボイラー運転スイッチ、ストーブ運転スイッチを「入」にしてください。（燃焼中の場合はそのままです。）

3.運転するときのご希望の室温又は、ストーブ火力に合わせてください。

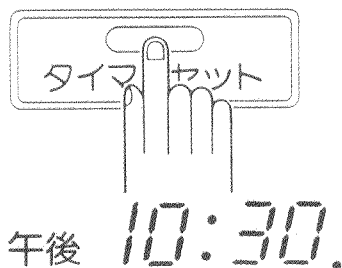
4.ボイラー湯温調節ボタンで、循環水の設定湯温をご希望の温度に合わせてください。

5.タイマーセットボタンを押してください。
時刻表示にタイマーセット時刻が表示され、タイマー表示及びボイラータイマーマーク、ストーブタイマーマーク（燃焼中の場合は消火表示も）が点灯し、床暖房（ボイラー）とストーブのタイマー運転に入ります。

● 床暖房(ボイラー)単独運転時の床暖房(ボイラー)タイマー運転 ストーブ単独運転時のストーブタイマー運転 の場合も ストーブ/ボイラー の位置に合わせておくことで、それぞれの単独タイマー運転ができます。

●タイマーセット時刻になるまでは、時刻表示にタイマーセット時刻、タイマー表示「表示時刻に運転します」及びタイマーセットマークが表示され続けます。

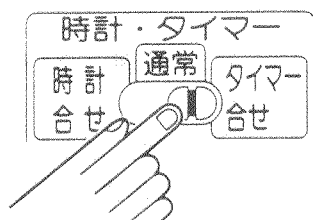
●タイマー運転は、運転スイッチが「入」になっていないと運転が開始されません。
●おでかけのときのタイマー点火は避けてください。

■タイマー運転の解除

●タイマーセットボタンを押します。
タイマー表示とタイマーマークが消灯し、時刻表示に現在時刻が表示され(時計動作コロン点滅)、タイマー運転が解除されます。

●このままであればボイラー運転表示及びストーブ運転表示が点灯し、自動的に運転を開始します。運転を停止する場合は、ボイラー運転スイッチ及びストーブ運転スイッチを「切」にしてください。

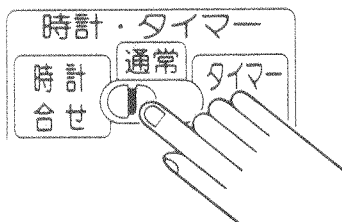
■タイマーセット時刻・現在時刻の確認

●タイマーセット時刻の確認

・時計調節スイッチを「タイマー合せ」に合わせます。

午前 6:30

時刻表示にタイマーセット時刻が表示されます。

●現在時刻の確認

・時計調節スイッチを「時計合せ」に合わせます。

午後 10:30.

時刻表示に現在時刻が表示されます。

●確認後、時計調節スイッチは、必ず「通常」位置にもどしてください。

ボイラーバーナに油をためてしまったとき

●ボイラーバーナ内に油がたまった場合、このまま点火操作をすると異常燃焼したり、点火不良となります。33ページ「ボイラーバーナの油抜き」を参照して、油を抜いてください。
ボイラーバーナに油がたまったことに気付かないで点火したときは、バーナ内にたまった油が燃えつきるまで炎が大きくなって燃焼します。このようなときは、すぐボイラー運転スイッチを「切」にし、たまった油が燃えつきるまでそのままお待ちください。このとき電源コードのプラグは抜かないでください。

循環水の凍結予防（循環液の注入）

寒冷地だけでなく、暖かい地域でも凍結予防及び腐食予防のために、必ず循環液を入れてください。
●循環液は必ずコロナ床暖房用循環液（別売品）をご使用ください。他の不凍液を使用したり、混合したりすると製品の寿命が短くなります。
●循環液は3年を目安に入れ替えてください。（開封した循環液も含む）

結露水の処理

●排気管に結露水がたまった場合は、お買い求めの販売店に点検を依頼してください。

モニターサインについて

ストーブにトラブルが発生すると、トラブル箇所が設定湯温表示及び設定室温表示に記号表示（モニターサイン）されます。
この場合記号表示の内容を、ストーブ左側面に印刷されたモニターサイン一覧表、又は37・38ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」をご覧の上、必要な処置をしてください。

〈モニターサイン一覧表〉

分類	モニターサイン	異常状態	分類	モニターサイン	異常状態
ストーブ	E1	途中消火	ストーブ	P1	ポット予熱不足
	E2	不着火		P2	ポット温度低下
	E3	対震作動		P3	ポット異常過熱
	E4	安全サーモ作動		P5	基板不良
	E5	排気管抜け検知作動	ボイラー	F1	熱交サーモ作動
	E6	ルームサーモ断線		F2	湯温サーミスタ断線
	E7・E9	停電		F3	空だき検出
	E8	疑似火炎		F5	熱交異常検出
	EA	燃焼用送風機異常検出		F6	途中消火
	EC	ルームサーモ短絡		F7	不着火
	Ed	対流ファン回転数異常検出		FA	燃焼用送風機異常検出
	EE	停止時ポット異常過熱		FC	湯温サーミスタ短絡
	EO	基板温度異常			

使用上の注意

本書の「特に注意していただきたいこと、安全のために必ずお守りください」の他に、次の項目についても注意してください。

- ●クリーニング店、美容院などの化学薬品を使うところや温室、飼育室など、動植物の育成栽培に使用しないでください。
- ●雷が発生したとき、雷（誘導雷）により一時的な過電圧がかかっても、過電圧防止装置が機器を保護するしくみになっていますが、大きな雷（直撃雷など）の場合は、電子部品を損傷するおそれがありますので、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ●温水配管の途中にバルブが取りつけられている場合は、必ず運転前に1部屋（1回路）以上のバルブが常に開いていることを確認してください。（循環水が常に流れる状態にしてください。）

6.安全装置

このストーブには次のような安全装置がついています。
すべての安全装置は、異常が取り除かれても再度点火操作をしなければ運転は停止したままです。

安全装置	原因・作動結果	処置方法
対震自動消火装置 （E3表示）	●強い地震や衝撃を受けたとき ⇩ ・モニターサイン E3 表示 自動的に消火（ストーブ・ボイラー）	●ストーブの周辺に異常がないか確認し、点火操作してください。 （対震自動消火装置は作動後自動的にセットされます。）
点火安全装置 ・ 燃焼制御装置 （途中消火） E1 表示（ストーブバーナ） F6 表示（ボイラーバーナ） （不着火） E2 表示（ストーブバーナ） F7 表示（ボイラーバーナ）	●点火ミスをしたとき ●途中失火をしたとき ●炎が異常に小さいとき ⇩ ・モニターサイン E1 表示または E2 表示（ストーブバーナ） 自動的に消火（ストーブ） ・モニターサイン F6 表示または F7 表示（ボイラーバーナ） 自動的に消火（ボイラー）	●日常の点検・手入れ（28～36ページ参照）をしてから点火操作をしてください。 ●なおも異常がある場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
停電安全装置 E7 表示・E9 表示 （30秒以上）（1秒以上30秒未満）	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき ⇩ ・通電後モニターサイン E7 表示または E9 表示 自動的に消火（ストーブ・ボイラー）	● E7 の場合、時計などのセットをしてから、点火操作をしてください。 ● E9 の場合、通電後点火操作をしてください。 ●電源プラグを確認してください。
過熱防止装置 ●過熱防止サーモスタット130℃ （E4表示）	●対流用送風機のファンフィルターやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・モニターサイン E4 表示 自動的に消火（ストーブ・ボイラー）	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 （異常過熱防止サーモスタット:220℃が作動した場合（表示部全消灯）は、点検・修理を依頼してください。）

●停電したときの再通電直後（ E7 または E9 表示）点火操作をすると E4 表示が出ることがありますが、これはストーブの温度が一時的に上昇するためで、異常ではありません。4～5分冷却した後に、点火操作してください。

7.その他の装置

装置の名称	原因・作動結果	処置方法
再点火安全装置	●消火直後、再点火操作したとき ⇩ ・燃焼室の温度が一旦冷却してからでないと点火動作に入らない	（●燃焼室が冷却後、自動的に点火動作を開始します。）
排気管抜け検知装置 （E5表示）	●排気管の接続部がはずれたとき ●排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線したとき ⇩ ・モニターサイン E5 表示 ストーブ・ボイラーの運転停止	●給排気筒および排気管の接続部に、はずれ・ゆるみがないか確認してください。 ●排気管抜け検知用リード線のゆるみまたは、はずれ・切れがないか確認してください。 排気口キャップ 排気管抜け検知用リード線 給排気筒 ねじ
燃焼用送風機異常検出装置 ［ EA 表示(ストーブ用送風機) FA 表示(ボイラー用送風機)］	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・モニターサイン EA 表示（ストーブ用送風機）または FA 表示（ボイラー送風機） ストーブ・ボイラーの運転停止	●異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。
対流用送風機異常検出装置 （Ed表示）	●回転数が異常に低下したとき ⇩ ・モニターサイン Ed 表示 ストーブ・ボイラーの運転停止	●異常低下の原因を取り除いてから点火操作をしてください。
過電流防止装置 （表示部全消灯）	●内部配線のショートにより過電流が流れたとき ⇩ ・電流ヒューズが切れ、すべての運転を停止	●ショートの原因を取り除いてから電流ヒューズを交換し、点火操作をしてください。
循環水過昇防止装置 ●熱交サーモスタット 105℃ （F1表示）	●循環水が極端に減少したとき ●循環水が循環しないとき ⇩ ・モニターサイン F1 表示 ボイラーの運転停止	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 （異常過昇防止サーモスタット:220℃が作動した場合（表示部全消灯）は、点検・修理を依頼してください。）
空だき防止装置 （F3表示）	●循環水が極端に減少したとき ⇩ ・モニターサイン F3 表示 ボイラーの運転停止	●空だき検出の原因を取り除いてから点火操作をしてください。
安全サーミスタ(基板上:73℃) （E0表示）	●対流用送風機のファンフィルターやストーブの前面がふさがったとき ●ストーブの前面に障害物などがあるとき ⇩ ・モニターサイン E0 表示 自動的に消火(ストーブ・ボイラー)	●原因を取り除いてから点火操作をしてください。 （異常過熱防止サーモスタット:220℃が作動した場合（表示部全消灯）は、点検・修理を依頼してください。）

8.日常の点検・手入れ

点検、手入れのときの注意

点検・手入れは消火後、ポットバーナが冷却してから、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

⚠注意 **電気部品の分解や市販品との交換は絶対にしないでください。**

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■周囲の可燃物（使用ごと）

- **⚠注意** **ストーブの周囲は、常に整理・掃除し、燃えやすいものを置かないでください。**

■ほこり・汚れ（使用ごと）

- ほこりや汚れをそのままにしておきますと、油がしみたりして危険です。
  ストーブはいつも清潔にしてご使用ください。

■油もれ・油のたまり・油のにじみ（使用ごと）

- 置台・油タンクに油もれ・油のたまりや油のにじみがないか、ときどき点検してください。
  また、給油の際にこぼれた灯油は、よくふきとってください。

- 油もれのある場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

■ゴム製送油管の点検・交換の目安（シーズン初め）

- **⚠注意** **ゴム製送油管は、屋外で使用しないでください。**
  屋外での使用は禁止されています。
- 屋内でゴム製送油管を使用しているときは、膨潤、収縮、変質、変形、ひび割れがないか確認し、欠点のあるときは交換してください。
  交換の目安は、3年に一度です。

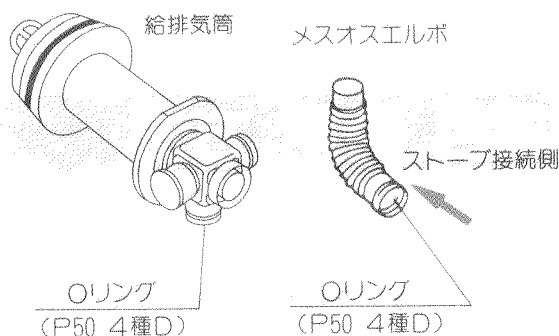
■油タンク（シーズンの初め、適時）

- 油タンク内は水やごみがたまりやすいものです。給油のとき、点検してください。
  油タンク内の水抜き及び掃除は、油タンク付属の取扱説明書に従って行ってください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■給排気筒の接続部のゆるみ及びトップの周囲(月に1回程度)

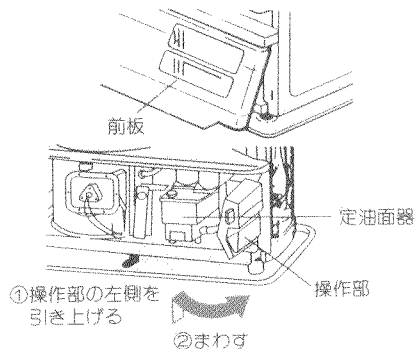
●給排気筒及び、トップの周囲に障害物が置いてないか、ときどき点検してください。

●給排気筒がつまりますと、不完全燃焼をおこします。シーズン初めには必ず点検し、くもが巣をつくったり異物が入ったりしているときは、必ず掃除してください。

●給排気筒及び、排気管の接続部がはずれたり、排気管抜け検知用リード線がはずれたり、断線していないか点検してください。

●給排気筒を一度取りはずして、再び取り付けるとき、排気管の接続部内部にはめこんであるOリングが破損していないか確かめてください。

破損していた場合は、お買い求めの販売店に交換を依頼してください。

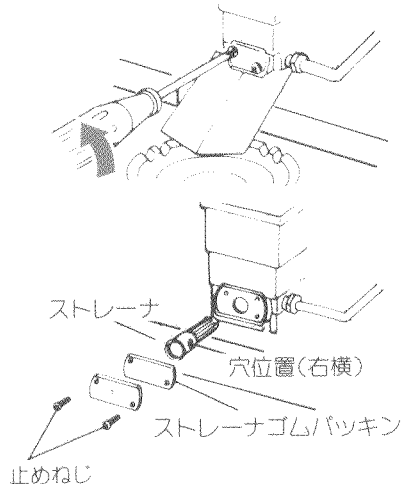
■定油面器のストレーナの掃除(適時)

●定油面器には、ごみを除くためのストレーナがついています。
ごみがたまると、灯油の流れを妨げて、十分な火力が出なくなります。
次のように掃除してください。

1.油タンクの送油バルブを閉じてください。

2.ストーブの前板を止めているねじ(5本)をはずし、前板の下側を引き上げて、前に引いて取りはずしてください。

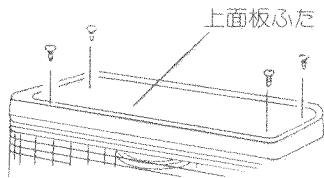
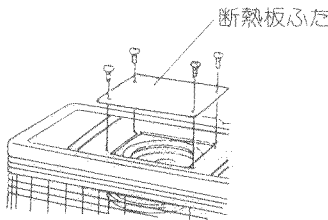
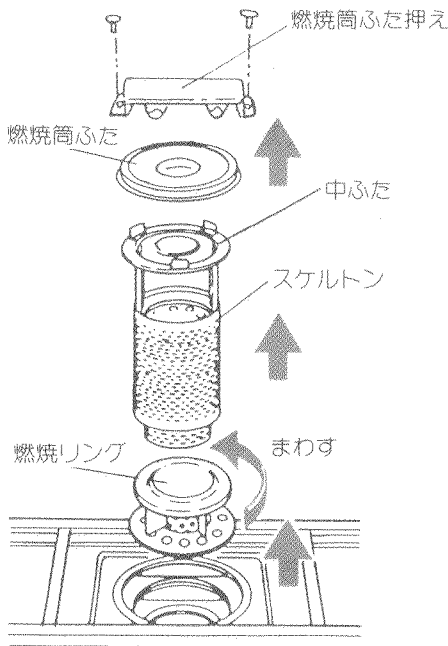
3.操作部を左図のように、①操作部の左側を少し引き上げて、②手前にまわして、開いてください。定油面器がみえてきます。

4.ストレーナの掃除口に荷札などの厚紙を差し込んで、油ガイドを作り、その下に容器を置いてストレーナの止めねじをゆるめてはずしてください。
定油面器の汚れた灯油やごみが全部流れ出ます。

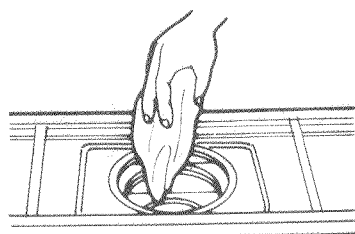
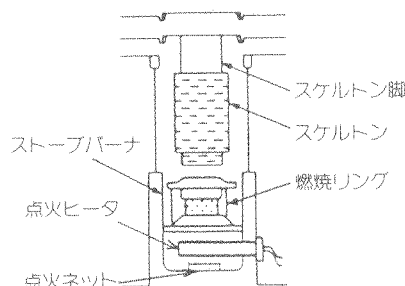
5.ストレーナを取り出して、きれいな灯油の中ですすぎ洗いをしてください。(水で洗わないでください。)

●ストレーナゴムパッキンを忘れぬようにしてください。
●ストレーナを逆に入れないでください。また、穴位置が、必ず、右横になるように取り付けてください。
●ストレーナの止めねじを、固く締め付けてください。
●油もれがないか確認してください。

■ストーブバーナの掃除（適時）

● ご注意 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

●ストーブバーナにすすがついて炎の形が不揃いになったときや、ストーブバーナの底にすすやカスがたまりすぎて着火がおそくなったときは、次のようにしてすすを取り除いてください。

1.上面板ふたを取りはずしてください。

2.断熱板ふたを取りはずしてください。

3.燃焼筒ふた押えを取りはずしてください。
4.燃焼筒ふたをはずしてください。
5.スケルトンは中ふたに取りついています。スケルトンをガラス円筒に当てないようにして、取りはずしてください。

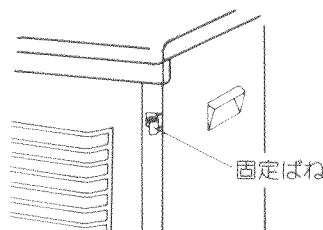
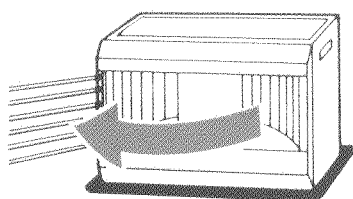
6.燃焼リングをまわして取り出してください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

7.ノズル、点火ヒータ、点火ネット、フレームロッドをいためないように、ポットバーナ内部のすすをドライバーなどでかき落としてから、布でふきとってください。

8.組立ての際、燃焼リングは、左図のように正しく確実に取り付けてください。

●ストーブバーナ、燃焼リングを損傷したまま使用しますと、燃焼が悪くなります。ドライバーなどでつついてみて穴があいたり、欠けた場合は新しいものと交換してください。ストーブバーナの交換は、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

■反射板・ガラス円筒の掃除（適時）

●**ご注意** **掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。**

●反射板及びガラス円筒にほこりがたまりますと、反射効率が悪くなるばかりでなく危険ですので、次の要領で適時掃除をしてほこりを取り除いてください。

1.前面ガードを右側の固定ばね（2個）からはずし左側にまわしてください。

2.ガラス円筒を割らないように注意して、掃除機などで内部のほこりをきれいに掃除してください。

3.やわらかい布などで、反射板及びガラス円筒をきれいに拭いてください。

4.掃除が終わりましたら、もとどおりにセットしてください。

●前面ガードは、きちんと取り付けてください。

前面ガードのセット

■ガラス円筒内部の掃除（適時）

●ご注意 掃除は、ストーブを消火させ充分冷却してから、行ってください。
熱い状態で行うとやけどのおそれがあります。

●長期間の使用や、油だまりによる大燃焼の後にはガラス円筒がすすけることがあります。
ガラス円筒がすすけて炎が見えにくくなったときは、30・31ページ「ストーブバーナの掃除」の項にしたがい、スケルトンをはずしてガラス円筒を掃除してください。

●ガラス円筒には、水をかけたり、衝撃を与えたり絶対しないよう注意してください。

●運転中にガラスが徐々にすすけた場合は、しばらくの間（約30分間）火力を大きくすることにより、すすを除去することができます。

■ストーブ用点火ヒータ・点火ネット・ノズルの点検（シーズンの初め）

●ストーブ用点火ヒータや点火ネットにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油のひろがりが悪くなり、着火不良の原因になります。

●ノズルの先端にすすが付着しますと、異常燃焼になったり、着火不良や消火時間が長くなる原因になります。

シーズンの初めには、必ず点検してください。
ストーブ用点火ヒータ、点火ネット、ノズルの点検・交換は破損のないように注意して行う必要がありますので、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

■フレームロッドの点検（適時）

●フレームロッドの先端にすすが付着したり、フレームロッドが変形すると、誤作動の原因になります。
すすの付着やフレームロッドの変形がある場合は、必ずお買い求めの販売店に点検・交換を依頼してください。

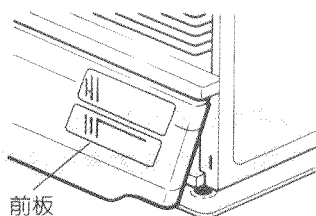
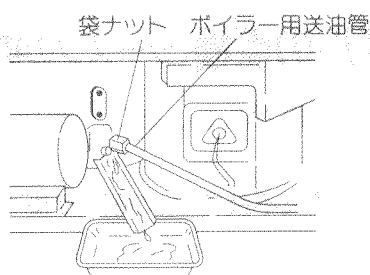
■ボイラー用点火ヒータの点検（シーズンの初め）

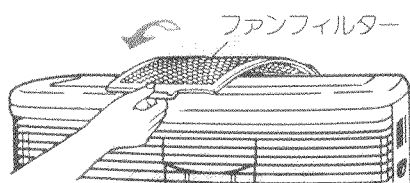
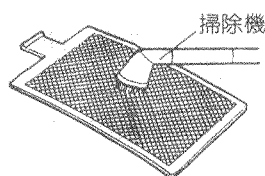
●ボイラー用点火ヒータや点火しんにすすが付着しますと、赤熱が低下したり、油の吸上げが悪くなったりして、点火しにくくなり、着火不良の原因になります。

点火ヒータの脱着は入念に行う必要がありますので、必ずお買い求めの販売店に依頼してください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■ボイラーバーナの油抜き

●着火不良などのため、ボイラーバーナ内に油がたまった場合次の要領で油を抜いてください。

1.前板をはずしてください。
2.ボイラー用送油管とボイラーバーナ接続部下側に案内を設けて容器に受け、ボイラー用送油管の袋ナットをはずしてください。
ボイラーバーナ内の油が流れ出ます。
3.油が全部流れ出たら元通りにボイラー用送油管袋ナットを締め付けてください。
油もれのないことを確認してください。

■対流用送風機のファンフィルターの掃除（週に1回以上）

●ファンフィルターがごみやほこりで目づまりすると、送風力が弱くなり排気温度上昇やストーブの表面温度が上昇する原因になります。〔過熱防止装置（過熱防止サーモスタット）または安全サーミスタの働きで運転が停止する場合があります。〕
次の要領でストーブ裏面のファンフィルターの掃除を行ってください。

1.左図の矢印のようにファンフィルターを手前に引き出し、ストーブ裏面から取りはずしてください。
2.ファンフィルターに付着したほこりを掃除機で吸い取ってください。
3.掃除が終わりましたら、もとどおりに取り付けてください。

● ⚠注意 **ファンフィルターをはずしたまま運転しないでください。**
対流用送風機のファンフィルターをはずした状態で運転しますと、カーテンなどを巻き込んで火災になるおそれがあります。また手などをふれるとけがをするおそれがあります。

■対流用送風機の掃除（適時）

●対流用送風機ファンにごみやほこりがたまると、送風力が弱くなり、音が大きくなってくることがあります。このようなときには、対流用送風機ファンのほこりを取り除いてください。
●ストーブ後側の対流用送風機のファンフィルターをはずし、ブラシなどで静かにほこりを取り除いてください。
●掃除終了後、ファンフィルターは必ずもとどおりに取り付けてください。

■地震などの災害が発生したときの点検について

●地震などの災害が発生し、ストーブに振動や衝撃が加わったときは、運転前に必ず次の点検を行ってください。
　●給排気筒まわりのはずれ、もれの確認
　点検で異常が見つかった場合は、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。

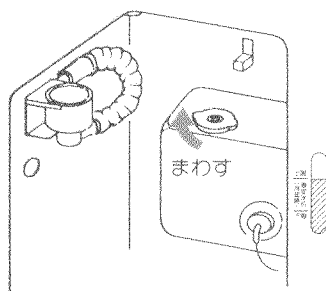
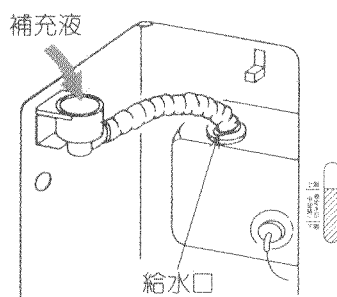
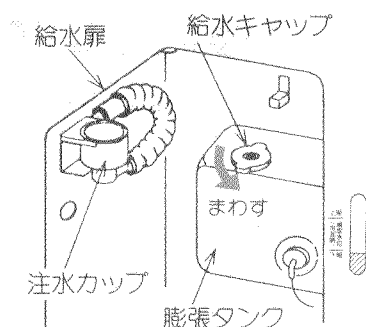
■温水配管の水もれの確認（適時）

●ストーブ内部や温水配管接合部から水もれがないか確認してください。
●温水配管の途中にバルブを取り付けた場合は、必ずバルブが開いていることを確認してください。

点検、手入れの必要項目、時期、方法

■循環水の補給（適時）

● ⚠注意 **循環水は少しずつ蒸発します。1ヶ月に1回程度は、冷却時に膨張タンクの水位が規定水位にあることを確認し、不足している場合は床暖房専用補充液を補給してください。上限水位以上は入れないよう注意してください。**

（配管などのもれで補給する場合は、床暖房用循環液を入れてください。）

1. 給水扉を開き、膨張タンクの給水キャップをはずします。

（給水キャップを図のように反時計方向に約130°まわすとはずれます。）

●運転中、膨張タンクは高温になっています。補充液を補給する時（給水キャップをはずす時）は、必ず運転を停止し、ストーブが冷えてから行ってください。

2. 注水カップのホースを給水口に十分差し込んでください。

3. 注水カップから上限水位まで、補充液を補給してください。

●上限水位以上は入れないよう注意してください。

4. 注水カップのホースを元に戻してください。

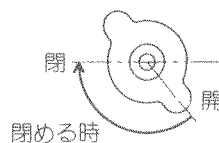
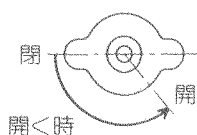
●できるだけ、ホース内に補充液が残らないようにしてください。

5. 給水キャップを確実に締め込んでください。

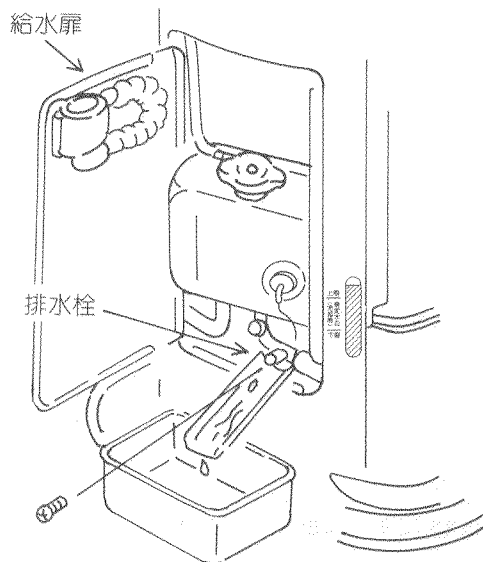
（図のようにキャップが水平になるまで、しっかりまわしてください。）

給水キャップの開閉方法

〈閉めた状態〉

〈開いた状態〉

●コロナ純正床暖房用循環液は、凍結予防の他に床暖房に使用される機器（ストーブ・コンベクター・配管部品など）の防錆効果を目的に作られた循環液で、すでに純水で適正な濃度に調合してありますので、試運転時には、このままストーブに入れてください。
●他社銘柄の防錆剤、不凍液（特に車両用など）を使用したり、混合したりしますと防錆効果が発揮されず機器の耐久性がそこなわれたり、粘度があわずポンプの性能が十分発揮されずに、沸騰してしまうことがあります。
●循環液は、常温では引火しませんが、加熱されたストーブの上などにかかると着火することがありますので、取扱いには十分注意してください。
●循環液は3年を目安に入れ替えてください。（開封した循環液も含む）
●循環液の凍結温度は－20℃に調合されています。

〈循環液・補充液を入れ過ぎたとき〉
循環液・補充液を上限水位以上に補給した場合は、次の要領で循環液を抜いてください。

1.給水扉をあけてください。
2.排水栓の下に案内を設けて容器に受け、排水栓のネジをはずしてください。
循環液が流れ出ます。
3.水位が上限まで下がったら排水栓のネジを取り付けてください。
液もれのないことを確認してください。

9.定期点検

長期間ご使用になりますと、ストーブの点検が必要です。
2シーズンに1回程度、シーズン終了後などに、お買いあげ店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会（TEL 03-3499-2928）で行う技術管理講習会終了者（石油機器技術管理士）など〕のいる店などに点検依頼されることをおすすめします。

10.故障・異常の見分け方と処置方法

■次のような現象は故障ではありません。

●修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

	現象	説明
点火時・消火時	初めて使用するとき、煙やにおいがでる。	耐熱塗料やほこりが焼けるためです。 しばらく窓をあけて換気をしてください。
	燃焼開始時や消火後に「ピチピチ」という音がする。	本体内部が熱により膨張、収縮するためです。
	点火時にポンと音がする。	点火する時に発生する着火音で、異常ではありません。

■使用中に異常がありましたら、次表により原因を調べて処置をしてください。

●原因のわからないときや、処置のむずかしいときは、お買い求めの販売店、またはお近くのコ

原因 ＼ 現象	E1（途中消火・ストーブ）	E2（点火しない・ストーブ）	E3（対震作動）	E4（過熱防止サーモスタット作動）	E5（排気管抜け検知作動）	E7（停電）E9（停電）	E8（疑似火炎）	E0（安全サーミスタ作動）	F1（熱交サーモ作動）	F3（空だき検出）	F6（途中消火・ボイラー）	F7（点火しない・ボイラー）
電源プラグをコンセントに差し込んでいない												
強い地震があった。または、ストーブに衝撃を与えた			●									
送油バルブが閉まっている	●	●									●	●
ゴム製送油管に空気だまりがある	●	●									●	●
定油面器に水、ごみの目づまり	●	●									●	●
給排気筒の設置が基準通りでない。排気管が長すぎる												
対流用送風機のファンフィルターにほこりがたまった				●				●				
給排気筒工事不適当のため逆風現象がある	●										●	
燃焼リングの取付けが悪い												
給排気筒のつまり												
給排気筒トップ先端がおおわれている	●										●	
油もれがある												
給排気筒接続部がはずれている。すきまがある。排気管抜け検知用リード線端子接続のゆるみ					●							
フレームロッドにすすが多量に付着した	●						●					
膨張タンクの循環水不足									●	●		
温水配管がつぶれている。バルブが閉じている									●			
長時間停電があった（30秒以上-E７表示）						●						
停電があった（１秒以上30秒未満-E９表示）						●						
ルームサーモ取付位置が悪い												

現象		説明
燃焼時・その他	青炎の中に黄色い炎（赤火）が混じる。	異常ではありません。
	給排気筒の先端から連続的に白煙が出る。	外気温が低くなると、排気ガス中に含まれている水分が凝結して水蒸気になるためで、異常燃焼による白煙ではありません。
	灯油ぎれの際、一瞬炎が大きくなって消火する。	異常ではありません。
	停電したときの再通電直後（E7または E9表示）点火操作をすると、E4表示が出ることがある。	停電によりストーブの温度が一時的に上昇するためで、異常ではありません。4～5分冷却した後に、点火操作してください。

ロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。　※設定室温表示にモニターサインが表示されます。

炎が大きくならない	黒煙を出して燃える	ガラス円筒がすすける	音をたてて燃える	灯油のにおいがする	爆発的な燃焼をする	電源が入らない	室温が低いのに火が大きくならない	正常運転するがコンベクターがあたたまらない	沸とう音がする	振動が大きい	処置方法
						●					コンセントに確実に差し込む
											P34「地震などの災害が発生したときの点検について」の点検項目を確認し、運転スイッチを押し直し再点火する
											送油バルブを開く
●											ゴム製送油管を振る。山形になっている所は平に直す
●											送油バルブをしめてストレーナをはずし、掃除する。油タンクの水を抜く
	●	●									基準通りに設置する
											ファンフィルターのほこりをブラシなどで掃除する
	●	●	●	●	●						給排気筒の取付けを適正にする
	●	●	●								正しく取り付ける
	●	●	●								給排気筒を掃除する
	●	●	●								おおっているものを取り除く
				●							もれ箇所を締め直す（販売店に修理を依頼する）
				●							給排気筒接続部のはずれを直す ゆるみを直す
											すすを取り除く（販売店に修理を依頼する）
								●	●	●	規定水位まで補充液を入れる
								●	●		温水配管のつぶれを直す。バルブを開く
											設定室温、時刻などをセットし再度点火操作をする
											リセットし再度点火操作をする
							●				適正な位置に取り付け直す

11.部品交換のしかた

⚠注意 不完全な修理、調整は危険ですので、部品の交換、調整が必要の場合には、お買い求めの販売店又は、修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会で行う技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店にご相談ください。

部品交換は コロナ純正部品 とご指定ください。

部品ご入用の際には、コロナ製品取扱販売店で必ず**コロナ純正部品**とご指定ください。
純正部品以外の部品をご使用になりますと、性能が十分に発揮されないばかりか、ストーブを損傷したり思わぬ事故の原因になります。

12.保管(長期間使用しない場合)

設置したままで保管される場合やしまわれるときは、日常の点検・手入れの項を参照し、次の要領で保管してください。

■手入れのしかた

1. ⚠注意 **電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**
2. 油タンクの灯油は、すっかり出してください。中に水分やごみが残ったままにしておきますと、油タンクが腐食する原因になります。
3. 定油面器のストレーナをはずして、水分やごみを除き、定油面器の中の灯油を抜いてください。
4. ファンフィルターのごみやほこりを取り除いてください。
5. 前板をはずして、掃除機などで内部のほこりを取り除いてください。
6. 塗装部分は、湿った布で汚れを落としてから、からぶきしてください。
7. 燃焼室のサビなどがある所をペーパーで磨き「補修用の塗料」(別売品)で塗装してください。

■保管方法

1. きれいになったら、ポリエチレンの袋に入れ、乾燥した場所に横倒しにしないでおしまいください。
2. 温水の配管を接続したままで保管する場合は、床暖房専用補充液を上限水位まで補給しておいてください。
3. 「取扱説明書」は、大切に保管してください。

13.仕　様

仕　様

型式の呼び			UHB-TP1000
種類			ポット式・屋内用・強制給排気形・強制対流形・床暖房兼用
点火方式			電気点火式
使用燃料			灯油（JIS1号灯油）
暖房出力	床暖房単独運転	最大燃焼時	5.23kW(4500kcal/h)　循環水量 420L/h
		最小燃焼時	1.63kW(1400kcal/h)　循環水量 210L/h
	ストーブ単独運転	最大燃焼時	4.88kW(4200kcal/h)
		最小燃焼時	1.62kW(1390kcal/h)
	床暖房・ストーブ同時運転	最大燃焼時	10.1kW(8700kcal/h)　循環水量 420L/h
		最小燃焼時	3.24kW(2790kcal/h)　循環水量 210L/h
最大床暖房出力			最大燃焼時 5.23kW(4500kcal/h)　循環水量 420L/h
発熱量及び熱効率	床暖房単独運転	最大燃焼時	22,440kJ/h(5360kcal/h)　熱効率 84%
		最小燃焼時	7,580kJ/h(1810kcal/h)　熱効率 77%
	ストーブ単独運転	最大燃焼時	20,680kJ/h(4940kcal/h)　熱効率 85%
		最小燃焼時	6,820kJ/h(1630kcal/h)　熱効率 85%
	床暖房・ストーブ同時運転	最大燃焼時	43,120kJ/h(10300kcal/h) 熱効率 85%
		最小燃焼時	14,400kJ/h(3440kcal/h)　熱効率 81%
燃料消費量	床暖房単独運転		最大燃焼時 0.65L/h　最小燃焼時 0.22L/h
	ストーブ単独運転		最大燃焼時 0.60L/h　最小燃焼時0.198L/h
	床暖房・ストーブ同時運転		最大燃焼時 1.25L/h　最小燃焼時0.418L/h
ストーブ単独運転標準適室			温暖地　木造 20.0㎡(12畳)　コンクリート 28.0㎡(17畳) 寒冷地　木造 21.5㎡(13畳)　コンクリート 33.0㎡(20畳)
本体水容量			3L（器具内蔵膨張タンク上限水位時）
床暖房用熱交換器の最高使用圧力			88kPa（0.9kgf/㎠）
外形寸法			高さ 628㎜　幅 824㎜　奥行 523㎜（置台を含む）
質量			47kg
電源電圧及び周波数			100V　50Hz
給排気筒の呼び径			D49
給排気筒の壁貫通部の孔径			φ85㎜
排気温度			260℃以下
電流ヒューズ			5A・10A
定格消費電力	床暖房単独運転		点火時160W　燃焼時103W　最大190W（点火初期に短時間発生）
	ストーブ単独運転		点火時340W　燃焼時 42W　最大600W（点火初期に短時間発生）
	床暖房・ストーブ同時運転		点火時480W　燃焼時120W　最大700W（点火初期に短時間発生）
床パネルの接続面積			13～50㎡（8～30畳）
システム内許容水量			50L以下（膨張吸収量：2L）
循環ポンプ機外性能			5-7,3-15（mH_2O-L/min）
温水配管接続口			R1/2オネジ
安全装置			対震自動消火装置・点火安全装置・燃焼制御装置・停電安全装置・過熱防止装置
その他の装置			再点火安全装置・循環水過昇防止装置・排気管抜け検知装置・空だき防止装置・過電流防止装置 燃焼用送風機異常検出装置・対流用送風機異常検出装置・安全サーミスタ
付属品			置台1個・ゴム製送油管締付バンド2個 本体固定金具2個・給排気筒セット1組

標準適室は、社団法人・日本ガス石油機器工業会の算定基準によります。

配線図

表示部
白
黄（7本）
茶茶赤黒赤
黄（5本）
白
青青緑緑
低圧トランス
試運転スイッチ
黄
白
SW1
入
切
高温スイッチ
SW2
ボイラ電磁ポンプ
ボイラ吸引ポンプ
桃
桃
緑黄橙茶
青黄赤
青黄赤
赤赤
対震
ストーブ電磁ポンプ
黄橙赤茶
ルームサーモ
白白
白白
空だき
ストーブ吸引ポンプ
青青
過熱防止サーモスタット
橙橙
白白
灰
排気筒外れ
ポットサーミスタ
白白黄黄
異常サーモスタット
緑
白
フレームロッド
熱交サーモスタット
緑緑
赤赤
黒黒
電源
切替サーモスタット
黒黒
ヒューズ10A
ヒューズ5A
白青黒
端子色 赤
湯温サーミスタ
白
白
青
白
ボイラ燃焼用送風機
白
青（3本）
白
青（5本）
赤橙緑黒白
緑
黄
点火トランス
白
青（6本）
白
白
灰灰
青青
青
白
オーブンポケット（操作部）
ポットヒータ
循環ポンプ
対流用送風機
ストーブ燃焼用送風機

14.アフターサービス

■保証について

●このコロナ石油ストーブには保証書がついています。「お買いあげ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りになり、大切に保管してください。

●保証期間はお買いあげいただいた日から1年間です。（BL商品は2年間です。）

●次のような原因による故障および、事故につきましては、保証の対象になりませんので注意してください。

■変質灯油や不純灯油など、また灯油以外の燃料使用による故障や事故。

■誤った使用方法による故障や事故。

■修理を依頼されるとき

●本書の「故障・異常の見分け方と処置方法」（37～38ページ参照）の項にしたがって調べてもよくならないときは、電源プラグを抜いてお買い求めの販売店または、お近くのコロナお客様ご相談窓口にご連絡ください。

●保証期間中であれば保証書の規定にしたがって無料修理させていただきます。

■保証期間がすぎているときは

●お買い求めの販売店にご相談ください。
修理によって使用できる製品についてはお客様のご要望により有料修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

●石油ストーブの補修用性能部品（機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は製造打ち切り後7年です。（BL商品は10年です。）

●この期間は、通商産業省の指導によるものです。

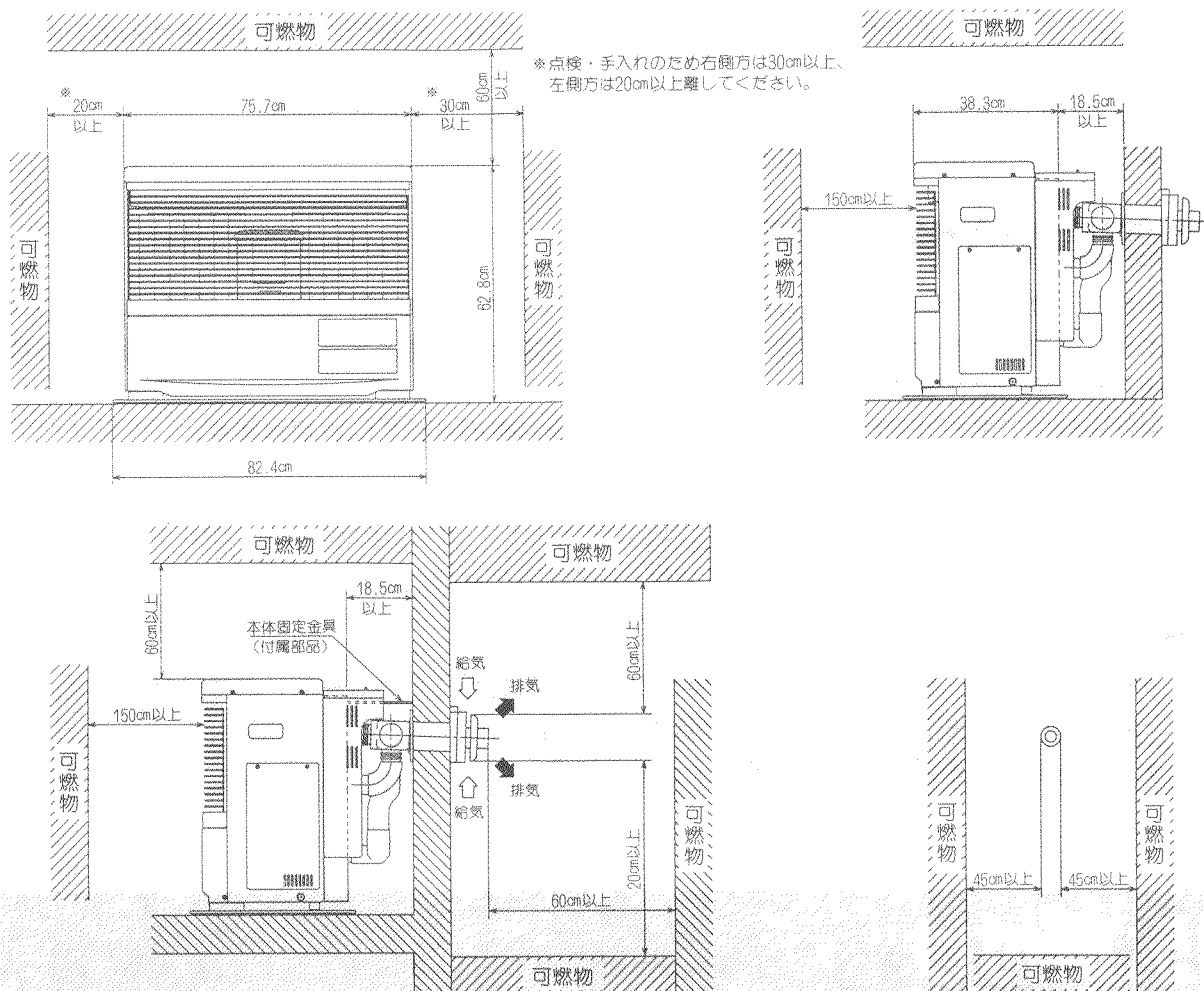
15.据付け

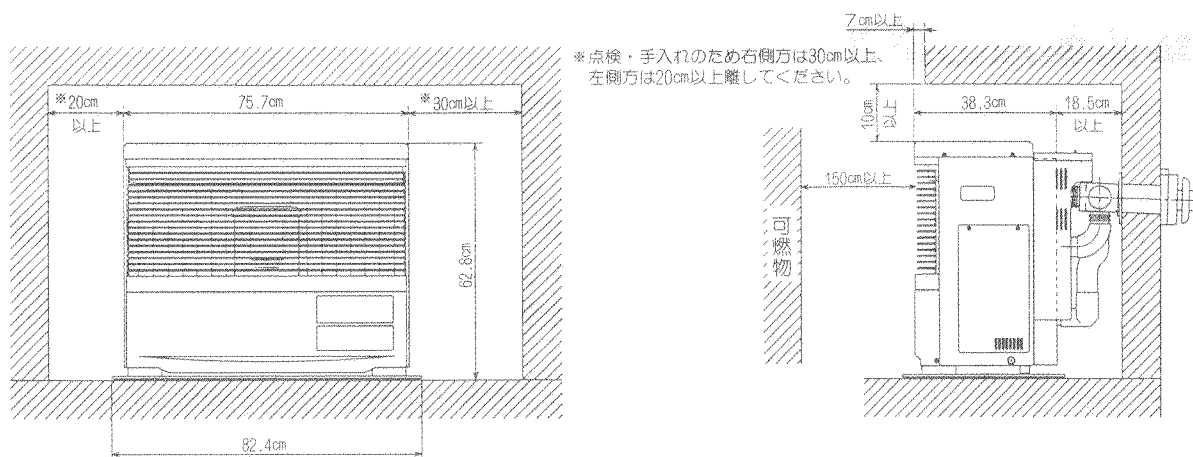
据付けは、お買い上げの販売店に依頼してください。
暖房配管の施工については、工事説明書の「暖房配管」の項に従ってください。

据付け場所の選定及び標準据付け例

据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準など法令の基準があります。工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、販売店又は据付業者とよくご相談してください。また、「標準据付け例」については、43・44ページを参照してください。

標準据付け例

ストーブの据付けは下図を満足させる位置に取り付けてください。

●点検・手入れのため壁面から右側方は30cm以上、左側方は20cm以上離してください。
●側方障害物は、両側にあってもよいが給排気筒と障害物、可燃物との距離は45cm以上とってください。
●前方に塀や建物がある場合は給排気筒先端と前方障害物との距離は60cm以上離し、かつ上方および両側方に気流を阻止する障害物がないようにしてください。
●給排気筒下面は地面から20cm以上離すようにしてください。なお積雪地域では、給排気筒先端が雪でふさがれるおそれのない高さを確保してください。
●木造の建物で壁にメタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りをしてある場所に給排気筒を通すときは、それらの金属部に接しないように電気的絶縁をしてください。
●壁に穴をあける場合、壁の内部にある電気配線・ガス・水道の配管にあたらない場所を選んでください。

〔マントルピースなどに設置する場合のストーブ周囲寸法〕　ストーブは必ず壁面より7cm以上手前に出すこと。

●マントルピースなどストーブが囲われる場所に設置する場合の内部やその周辺は、不燃材料または準不燃材料あるいは防熱板で仕上げを行ってください。またストーブは必ず壁面より7cm以上手前に出してください。
●この設置方法は防火性能評定委員会により評定承認されたものです。

上　方	側　方	前　方	後　方
10cm以上	15cm以上	150cm以上	18.5cm以上

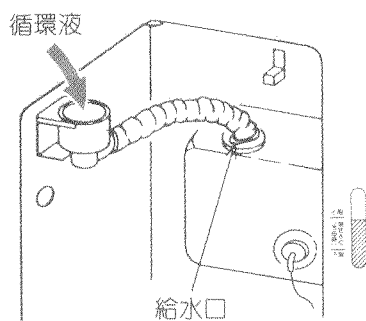
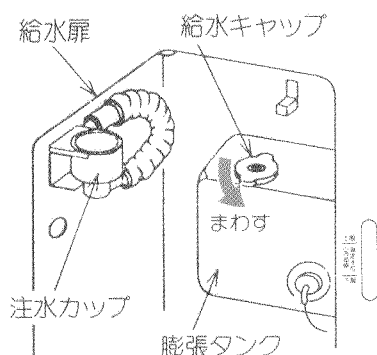
据付け後の確認

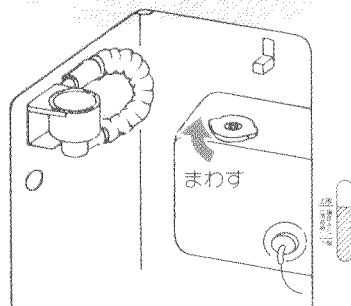
据付けが終わりましたら、もう一度、工事説明書の「安全のために必ずお守りください」をお読みになり、工事説明書に記載されているとおり据え付けられているかどうかを確認してください。

試 運 転

試運転は販売店または据付業者とご一緒に必ず行ってください。

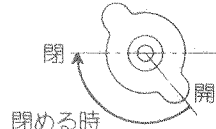
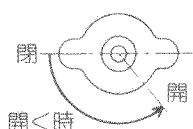
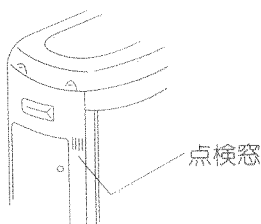
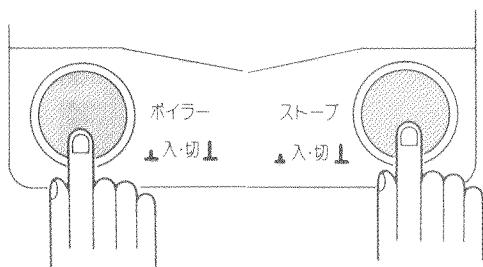
■運転準備

● ⚠注意 **電源プラグをコンセントに刃の根元まで確実に差し込んでください。**
●油タンクに給油し、送油経路の空気抜きをしてください。
●送油経路やストーブより油もれがないか確認してください。
●温水配管途中にバルブなどがある場合には、全開にしてください。
●安全装置をセットしてください。
〔定油面器リセットレバー（黒色）を左方向に止まるまで押してください。〕
●タイマー運転になっていませんか。
●ボイラー湯温調節ボタンで設定湯温を最高（70℃）に合わせてください。

試運転

■循環液の給水(水はり)

1.給水扉を開き、膨張タンクの給水キャップをはずします。
(給水キャップを図のように反時計方向に約130°まわすとはずれます。)
●運転中、膨張タンクは高温になっています。循環液を給水する時(給水キャップをはずす時)は、必ず運転を停止し、膨張タンクが冷えてから行ってください。
2.注水カップのホースを給水口に十分差し込んでください。
3.注水カップから上限水位まで、循環液を給水してください。
4.膨張タンク上の循環ポンプ単独運転スイッチを「単独運転」に合わせてください。表示部のボイラー運転表示が点滅して、循環ポンプだけが運転し、コンベクターなどへの水はりができます。循環ポンプを運転しながら給水してください。
●上限水位以上には給水しないでください。
●水はり終了後は、必ず循環ポンプ単独運転スイッチを「通常」に合わせてください。
●温水配管が複数の場合は、一回路ずつ循環液を給水していくと、簡単に水はり、エアー抜きができます。
5.注水カップのホースを元に戻してください。
●できるだけホース内に循環液が残らないようにしてください。
6.給水キャップを確実に締め込んでください。
(図のようにキャップが水平になるまで、しっかりまわしてください。)
給水扉を閉じてください。

給水キャップの開閉方法

〈閉めた状態〉

〈開いた状態〉

■運転

1.ボイラー運転スイッチ、ストーブ運転スイッチを押して「入」にしてください。
 ●ボイラー運転表示、ストーブ運転表示が点灯します。
 ●初めてお使いになるときは、耐熱塗料が焼けて煙と臭いがでますので換気を行ってください。
2.ボイラーバーナは9～12分間、ストーブバーナは5～6分間の予備燃焼がおわると本燃焼に切り替り、正常運転となります。
3.温水配管経路に、水もれのないことを確認してください。
4.異常なく燃焼・運転することを確認してください。
 ボイラーバーナの燃焼状態は「点検窓」（左側面にあります）から確認できます。
5.60分～90分後に、各部屋のコンベクターなどの温度が上昇していることを確認してください。
 温度上昇の悪い部屋がありましたら、ヘッダの流量調節バルブを調節してください。
 （温度の上がっている部屋の配管を絞ってください。）
6.異常がなければ、火力調節つまみを「微少」～「大」に設定してください。
 ●炎の状態は、青い炎の中にいくらかの黄色い炎（赤火）がまじっても異常ではありません。
7.火力調節つまみを「自動」に合わせ、ルームサーモによる自動運転ができることを確認してください。
8.循環水が冷却した後、膨張タンクの水位が下限水位以下であれば循環液を補給してください。

■消火の手順

●ボイラー運転スイッチ、ストーブ運転スイッチを押して「切」にし、異常なく運転を停止することを確認してください。
 ●ボイラー燃焼表示、ストーブ燃焼表示が消灯し、消火表示が点灯します。
 ●燃焼室が冷却すると自動的に燃焼用送風機、対流用送風機、循環ポンプが停止し、時刻表示以外のすべての表示類が消灯します。（ストーブ単独運転の場合は、循環ポンプは関係ありません。）

●正常運転しない場合は、37・38ページ「故障・異常の見分け方と処置方法」を参照してください。
●長期間の保管後、再び設置する場合も「試運転」の手順にしたがい、試運転を行ってください。